第 15 話　薬師丸ひろ子の時代

●キャンディーズとピンクレディー

山口百恵が全盛を誇った 70 年代後半、彼女とは別の形で絶大な人気を得た 2 つのグループがある。キャンディーズとピンク・レディーだ。

73 年に歌手デビューのキャンディーズは、伊藤蘭（ラン）、田中好子（スー）、藤村美樹（ミキ）の三人組で、75 年「年下の男の子」を大ヒットさせ紅白歌合戦に出場、77 年まで 3 回連続で登場した。人気絶頂の 77 年に突如解散、引退を宣言し、78 年に後楽園球場で伝説の解散コンサートを行った。

増田恵子（ケイ）と根本美鶴代（ミー）のピンク･レディーは 76 年に「ペッパー警部」でデビューし、「S･O･S」「カルメン 77」「渚のシンドバッド」など派手な振り付けでヒットを連発、77 年には子どもたちにまで愛される国民的アイドルの座を不動のものにした。79 年にはアメリカでデビューし活動の範囲を広げたが、80 年突如解散を宣言し、81 年にやはり後楽園球場で解散コンサートを行う。

しかし、この 2 組のアイドルは映画に本格的出演をすることはなかった。キャンディーズは、アシスタントとしてレギュラー出演していた人気バラエティ番組「8 時だョ！全員集合」主役であるザ・ドリフターズの主演映画に何本か顔を出した程度である。ピンク・レディーにはいちおう主演作『ピンク･レディーの活動大写真』（78 小谷承靖）があるものの、多忙の極みの中での出演で、劇中でも「ピンク･レディー」として歌い踊るのに留まった。

彼女たちはむしろ、グループ解散、歌手引退後に役者として活躍する。伊藤蘭は芸能界復帰後女優となり、『ヒポクラテスたち』（80 大森一樹）、『男はつらいよ 寅次郎かもめ歌』（80 山田洋次）に準主役で出演して話題を集めた。田中好子も同年、ソロ歌手で復帰し、『土佐の一本釣り』（80 前田陽一）でヒロインを演じたのを皮切りに、多数の映画、テレビドラマに出演して、『黒い雨』（89 今村昌平）で日本アカデミー主演女優賞を受賞するなど女優として高い評価を得た。2011 年に病没する直前まで活躍している。なお、前記の『男はつらいよ　寅次郎かもめ歌』と『土佐の一本釣り』は松竹 81 年のお正月映画として 2 本立て公開されている。

根本美鶴代は MIE の名でソロ歌手の傍ら女優業を始め、『水のないプール』（82 若松孝二）に出演した後、『コールガール』（82 小谷承靖）に主演する。増田恵子は歌手業を中心に活動していたが、『ふたり』（91 大林宣彦）で映画デビューし、大林作品などに何本か出演している。

●薬師丸ひろ子の鮮烈な初出演作

さて、山口百恵の引退と入れ替わりにアイドル女優として注目されたのは、百恵と同じく中学在学中にデビューした薬師丸ひろ子である。

この少し前、角川書店の角川春樹社長が映画製作に乗り出し、自社が原作を出版している横溝正史の『犬神家の一族』（76 市川崑）、森村誠一の『人間の証明』（77 佐藤純彌）で連続大ヒットを記録していた。第 3 弾として森村誠一の『野性の証明』（78 佐藤純彌）が企画され、物語の鍵を握る少女役が一般募集される。2000 名を超す応募者の中から選ばれたのが、当時 13 歳の薬師丸だった。

14 歳になって出演した『野性の証明』における自然な演技が評判となり、CM やテレビドラマにも起用されて一躍人気者となった彼女の初主演作は『翔んだカップル』（80 相米慎二　原・柳沢きみお　脚・丸山昇一）である。後に日本を代表する監督の一人となる相米慎二監督のデビュー作であり、相米独特のスタイルの映画作りが貫かれた新しいタイプの青春映画として大きな話題を呼んだ。

原作は少年マガジン連載の人気漫画であり、高校生男女が偶然同居することになるという、後のひとつのパターンとなる設定を、少年誌連載作品でおそらく初めて世に問い、大きな話題となっていた。

九州から東京の名門高校に入学して叔父の留守宅での生活を始めた勇介（鶴見辰吾）は、ルームメイト募集を頼んだ不動産屋の手違いで、同級生の圭（薬師丸ひろ子）と一つ屋根の下で暮らすことになる。もちろん学校には内緒だから、級友にバレないか冷や冷やものだ。秀才の中山（尾美としのり）が圭に惚れ、クールな才女・杉村（石原真理子）が勇介に興味を持ったりするから、なおややこしい。映画は、この四人の初々しい気持のやりとりを絶妙の描写で示していく。

役と同じ高校 1 年だった薬師丸の相手役に起用された鶴見は、79 年にスタートした人気テレビドラマ「三年 B 組金八先生」の生徒役で注目され、やはり高校 1 年。また、子役出身の尾美は当時中学 3 年、スカウトされデビューした石原は高校 2 年と、実際にミドルティーン世代の新鮮な顔ぶれを配して、この年齢の微妙な気分を醸し出した。この作品はキネマ旬報ベストテン 11 位に選ばれるとともに、若い読者に支持されて読者のベストテン 9 位に入っている。

『翔んだカップル』は 79 年に設立された意欲的な映画製作会社キティ・フィルムの製作により、東宝の映画館で公開された。次の『ねらわれた学園』（81 大林宣彦）は、角川書店が刊行する眉村卓の小説を映画化したもので、『犬神家の一族』以来映画界でヒットを連発する角川春樹事務所の製作、東宝配給である。大映が倒産し、日活がロマンポルノ路線に転じた後、日本映画界の 3 大企業だった松竹、東宝、東映は、自社製作の本数を激減させ、角川春樹事務所やキティ・フィルムのような外部製作会社の作品を上映することが多

くなっていた。

●主演作の興行的な強さ

人気絶頂の薬師丸は､デビュー作以来の縁で角川春樹事務所の看板スターになっていく。その位置づけを明確にしたのは、82 年の東映お正月映画として公開された『セーラー服と機関銃』（81 相米慎二　原・赤川次郎　脚・田中陽造）だった。真田広之主演の『燃える勇者』（81 土橋亨）との 2 本立て番組は、この年の日本映画興行ベストワンとなる。

セーラー服の女子高生が零細やくざの組長となり、クライマックスでは機関銃をぶっ放すという意表を突いた奇想天外な話を成り立たせたのは、薬師丸のスターとしての威力以外の何物でもなかった。硝煙に包まれたヒロインが放つ「カ・イ・カ・ン」という呟きは、流行語になったほどである。また、彼女の歌う主題歌「セーラー服と機関銃」もヒットして、上々の歌手デビューを飾った。

82 年の 1 年間、大学受験のために休業宣言した薬師丸ひろ子は、『探偵物語』（83 根岸吉太郎　原・赤川次郎　脚・鎌田敏夫）でスクリーンに復帰する。角川映画の男優トップスターであり、既に日本映画を代表する男優と目されていた松田優作との共演も衝撃を与えた。女子大生役の薬師丸と、彼自身が主演した人気テレビドラマ「探偵物語」79～80 をふまえた飄々とした私立探偵役の松田とがラストの空港シーンで交わす熱いキスシーンはファンの胸を大いに騒がせた。

お嬢様女子大生とそのボディガードに雇われた探偵が殺人事件に巻き込まれ、その真相を探るうちに恋仲になる。この作品も大ヒットし、『南極物語』（83 蔵原惟繕）という日本映画の興行記録を塗り替えた映画があったために年間興行成績 2 位に甘んじたものの、前作をさらに超える興行成績を収めた。薬師丸の歌う主題歌「探偵物語」も同じく大ヒットする。

この時期、映画も歌も、彼女が関わるものはすべて大ヒットする売れっ子ぶりだった。時代劇スペクタクルに挑んだ 84 年お正月映画『里見八犬伝』（83 深作欣二）も 84 年度トップの成績であり、次の『メイン･テーマ』（84 森田芳光）とで 1、2 位を独占している。郷ひろみや山口百恵の主演作でも年間興行成績のトップに立つほどではなかったのと比べると、薬師丸主演作の興行的な力の強さがわかるだろう。

●新しい才能の起用による品質の高さ

薬師丸ひろ子の代表作と言っていいのが、続く『W の悲劇』（84 澤井信一郎　原・夏樹静子　脚・荒井晴彦＋澤井信一郎）である。この作品は毎日映画コンクール日本映画大賞、キネマ旬報ベストテン第 2 位に輝き、原作小説を全くといっていいほど改変した脚本

は毎日とキネマ旬報で脚本賞を獲得した。薬師丸はブルーリボン主演女優賞を受賞している。

薬師丸演じる劇団の研究生は、公演で役をもらうために、演技修業をするだけでなく人気俳優に身体を提供したり端役ながら出演者全員の科白を覚えておいて代役到来に備えたりの努力を重ねる。その舞台への執念が、大女優のスキャンダルの身替わりになることで大役を得るチャンスを生むのである。その過程の中で、一人の娘が女優として逞しく踏み出す成長が生理感覚と心理感覚の双方を駆使して表現されていく。

このヒロインを見守る男を演じたのは、「あんたのバラード」78、「燃えろいい女」79などのヒット曲を持つロックバンド世良公則＆ツイストで知られ、解散後はソロ活動をするとともに人気テレビドラマ「太陽にほえろ」にレギュラー出演するなど役者にも挑戦していた世良公則だった。身替わりが発覚してボロボロになったヒロインが、再出発に際し敢えて毅然として彼と別れるラストは、薬師丸自身が大人に脱皮するのを感じさせた。

ただ、この時期の薬師丸は、女優業を続けることに疑問を感じ始めていたという。85年に角川春樹事務所から独立し、自力で歩む決心をする。それは、『Wの悲劇』のラストでのヒロインの決意と重なって見えた。

独立後第1作で東映86年のお正月番組になった柴田恭兵と共演の『野蛮人のように』（85川島透）こそ、ヒットシリーズとなる『ビー・バップ・ハイスクール』（85那須博之）と組んだために86年度第2位の興行収入を稼いだが、同じく87年のお正月映画として公開された『紳士同盟』（86那須博之　原・小林信彦　脚・丸山昇一）は興行的に失敗し、薬師丸のアイドルとしての圧倒的なまでの神通力は衰えた感があった。

その後は一枚看板のアイドルとしてではなく、それでも着実に女優としての存在を示し続けている。『ダウンタウンヒーローズ』（88山田洋次）で山田洋次作品に登場し、『病院へ行こう』（90滝田洋二郎）ではコメディ挑むなど役の幅を広げていった。最近では、『ALWAYS　三丁目の夕日』シリーズのお母さん役が知られている。それでもファンは、永遠に『翔んだカップル』『セーラー服と機関銃』の女子高生姿が忘れられないのだろう。

ただ品質という意味では、薬師丸ひろ子のアイドル青春映画は常にいいところを見せてくれた。角川春樹プロデューサーの大胆な起用により、『翔んだカップル』『セーラー服と機関銃』で相米慎二、『探偵物語』で根岸吉太郎、『Wの悲劇』で澤井信一郎と、80年代初めに青春映画を引っ提げてさっそうと登場した新しい才能を発揮する監督の手に委ねられた彼女は、さまざまな形で光る機会を得たのである。

80年の『翔んだカップル』がデビュー作になる48年生まれの相米、ロマンポルノから一躍ATG『遠雷』（81根岸吉太郎）で脚光を浴びた50年生まれの根岸、38年生まれで40代での遅咲きながら『野菊の墓』（81澤井信一郎）で鮮烈なデビューを飾った澤井を人気絶頂アイドル女優主演の切り札興行に起用した角川の才覚あってこそ、薬師丸の多様

な魅力が展開された。自主製作の『の・ようなもの』（81 森田芳光）で彗星のように現れた、50 年生まれの森田に『メイン･テーマ』を撮らせたのを含め、旬の監督を見出して真っ盛りのアイドルと組ませる先取り感覚が卓越していた。

事実、相米、根岸、澤井、森田はその後も幾多の秀作を送り出し、日本映画を支える監督となった。それは角川の目利きの確かさの「証明」だ。また、自社のドル箱作家・夏樹静子の原作を遠慮会釈なく改変させた『W の悲劇』をはじめ、脚本家や監督の自由を尊重する太っ腹さもツボに嵌った。

●恋愛とコンゲームの魅力が詰まった『紳士同盟』

薬師丸主演作の品質の高さは、アイドル時代最後の主演作『紳士同盟』においても持続されている。角川プロデューサーと袂を分かった後ではあるが、ここで組んだ監督も、『ビー・バップ・ハイスクール』シリーズでいっぺんに売れっ子となったロマンポルノ出身で 52 年生まれの那須博之であり、脚本は『翔んだカップル』の丸山昇一だった。

薬師丸演じる人を信じやすい女子大生が二度も詐欺に遭って金に窮し、怪しげな大人たちと組んで自身が詐欺集団の一員になろうとする。ヒロインである彼女の役目は、富豪の令息（時任三郎）を誘惑し陥れる大がかりな仕掛けの中で彼の心を掴むことだ。欺したつもりが欺され……。転々とする話の中で、ヒロインと「令息」とは偽りで実は……の青年とは本当に心惹かれ合っていく。

興行的にヒットこそしなかったものの、アイドル映画特有のわくわくする気分を感じさせてくれるのは変わらない。『俺っちのウェディング』（83 根岸吉太郎　脚・丸山昇一）で映画に颯爽と主演デビューし、テレビドラマ「ふぞろいの林檎たち」で人気を集めた時任と薬師丸の周囲を小林桂樹、財津一郎、石橋蓮司、伊武雅刀などの脇役陣が固めて華やかに詐欺ばなしを展開した。わたしも楽しませてもらった観客のひとりである。

自分が味わった愉悦を次のように書いたものだ。

【たしかに映画はわれわれ観客を夢の世界へといざなってくれるが、それは何も文字通りの夢想的映像のことばかりを指してはいない。
広い意味では大スター同士の「夢の共演」などというのだってその一種だろうし、現実の生活を描く映画からもすばらしい夢は湧き上がってくる。いや、むしろ、そうした虚と実のあわいから生じてくる〈映画の夢〉こそが味わい深いのではないだろうか。
年に一度のお正月映画がひときわ豪華な夢を待望されるのは、昔も今も変わるまい。まして当代きっての人気映画スター薬師丸ひろ子の主演作ともなればなおさらだ。で､『紳士同盟』だが、脚本・丸山昇一、監督・那須博之のコンビは、期待に違わぬ華やかな夢をつくりあげ、観る側をすこぶる豊かな気分にしてくれる。

巻頭、ヒロインが息せき切って空港ロビーに駆け込んできての騒ぎからカメラは躍動し、軽快なテンポで畳み込むように進む展開が間然するところがない。すばやいタッチで主だった登場人物が紹介され、話の導入がなされていく。歯切れのいい場面転換のリズムが心地良い。それが中盤からは一転して緩やかに情感を盛り上げ、ヒロインの思いが高まっていく過程をみずみずしくじっくりと描き出していく。そんなときの薬師丸ひろ子の表情の、なんと魅惑的なことだろうか。
そしてこの夢の最大のたのしみは、俳優が登場人物を演じ、さらに登場人物が詐欺のためのお芝居を演じていく二重構造だ。俳優たちは、いわば一次演技で人物に成りきると同時に、その人物の化けている姿を二次演技しなければならない。加えてその化けっぷりにも微妙な巧拙がある。小林桂樹や財津一郎の扮するボスはさすがに堂に入ったものだが、仲間の面々はすぐにボロを出しそうになり、あわててとりつくろったりする有様が、また複雑な面白さを生む。たとえばカフェバーのマスター役の伊武雅刀がわざとらしいパンチパーマと白背広でやくざに化けるときの作為丸出しの様子は、マスターの人物像を造型する一次演技の達者さと緊迫感十分に対比される。そのうえ、詐欺グループ同士が権謀術数の限りを尽くして騙し合う結果、互いが欺かれたふりをしたりするから、なおさら込み入って二重三重に物型が輻輳していく。
そんなめくるめく夢の楽しさの中から、徐々にヒロインの心情のうるおいが表現されてくる。彼女が表面平凡な女子大生で、安価な海外旅行へ行こうともすれば、コネを使ってでも大手出版社に入りたい、などとも考えるために、詐欺にひっかかる。それでも、他人を決して傷つけようとしない。たとえ自分が傷ついても相手を信じようとする。だから、騙されてばかりだ。しかし、彼女は常に誇りを捨てず、苦しくても自力で生きようとする。成金に堕落した故郷の家族に背を向け、過酷なアルバイトで金を稼いでいき、欲望を餌にした巨大な罠には落ちようとしない。
そして、彼女を騙そうとした結婚詐欺専門の若者にまで心を率直にぶつけていった結果、愛情の通じ合いを得る。二人の偽りの結婚式の場は、ほんとうの愛のクライマックスの舞台となった。ヒロインの純粋さが周囲の不純な海千山千の連中を突き動かすどんでん返しの結末には、素直に感動させられてしまう。このヒロインの姿は、手練の共演者たちに演技力は及ばなくてもスターらしい輝きで場をさらう薬師丸ひろ子自身の姿とも重なってくるかのようだ。ロマンポルノで『百合族』シリーズに新鮮な感性を発揮した那須監督が『ビー・バップ・ハイスクール』85 で一般映画に進出して三作目。今をときめくスター女優の魅力をみごとに活かし、観客を十分楽しませて、なお、愛の熱さまで感じさせてくれるすばらしい夢を見せてくれた。】

（キネマ旬報 87 年 2 月上旬号）

アイドル薬師丸ひろ子の繰り広げた世界は、80 年代前半から中盤に登場した新しい映画作家たちとの協働により、ひとつの独特なアイドル映画時代を形成したと言えよう。